



# けやきよ…

発行者

校長 西内英理

## 第2学期終了です。

9月と10月の台風による5日間の臨時休校、そしてその台風19号とその後の豪雨による水害など、予期せぬ自然の猛威にわれわれ人間の無力さを痛感させられた2学期でした。

水害被害に対して、保護者の方々や地域の皆さんからいただいた、たくさんのご支援やご協力に、あらためて感謝申し上げます。そして、今だに多くの方々がその影響から、以前の生活を取り戻せないでご苦労なさっていることに、心よりお見舞い申し上げます。

インフルエンザによる欠席(出席停止)が依然として後を絶ちません。本日の終業式も放送で行いました。冬休み中も家族そろってうがいや手洗いをを行い、3学期には全員がそろって登校できるよう、健康管理をよろしくお願いします。

終業式では、子供たちに次のようなことを話しました。

- 84日間の予定でスタートした2学期だったが、台風等の影響で5日間の臨時休校があり、79日間の登校となった。
- 多くの地域の方々や卒業生からの支援に、感謝の気持ちでいっぱいになった。また、多くの生徒が率先して、ボランティアとして片付けや清掃活動に進んで参加してくれたことは、平一中の誇りである。
- 以前、「けやき魂」について、「不撓不屈の精神である。」と話したことがあったが、この考えには大きな間違いがあったことに、今回の水害は気づかせてくれた。「けやき魂」は、「氷雨に耐え、嵐に息をこらし、土にしがみついて生きてきた。年ごとに重ねた年輪は厳しく苦しい修行のシンボル。不屈の魂を私はたたえる。」から、「どんな困難に出会っても、どんな辛いことにあっても、それから逃げ出さずに、強い気持ちで立ち向かい、克服すること。」と理解していた。しかし今は、「豊かな徳と風格を備え」そして、「永遠の光を放つ」の部分がないがしろにはいけないと感じる。「けやき魂」には、「不撓不屈の精神」はもちろん、それに加えて、「良いことは良い悪いことは悪いという善悪の判断や、他人の痛みや苦しみを自分のこととしてとらえ、寄り添ってその痛みや苦しみを共有することができる優しさや思いやり」も必要であると強く思うようになった。
- 皆さんは、中学生時代の3年間、この平一中で学ぶのだから、学習はもちろん、この「けやき魂」もしっかりと身につけて、社会に貢献できる人間に成長してほしい。
- もう1つは、11月25日発行の生徒会だより「私たちの学校」では「求む！笑顔のあいさつ」というタイトルで、「あなたは日常的にあいさつしていますか？」と投げかけている。あいさつについては、これまでたくさんの方に「相手に気持ちが伝わるあいさつをしよう。」と話してきた。元気あふれる声で、にこやかな表情で、相手の目を見て、立ち止まってなど、気持ちを伝える方法は人それぞれだが、人間関係を築く第1歩として、自分の気持ちがしっかりと伝わるような気持ちのよいあいさつができる人間になってほしい。
- 明日からの冬休み、2週間という短い期間ではあるが、健康で、自分を成長させることができる有意義な休みとなるよう祈ってる。よいお年をお迎えください。

この2学期、本校においてもSNSがらみのトラブルが多数発生しました。先日配布した「冬季休業中における生活について」の中でもお願いしましたが、インターネット上のトラブルに対しては、学校は十分な対応ができません。もしの場合は、すぐに警察等へ相談してください。その後、学校へもご一報ください。